

平成28年度第3回平塚市博物館協議会会議録

■開催日時 平成29年3月24日（金）10時～11時40分

■開催場所 平塚市博物館 特別研究室

■会議出席者（敬称略）

会 長 石綿 進一

副会長 椿田有希子

委 員 大野秀樹、澤井建二、平井 晃

事務局 高橋社会教育部長、澤村館長、縣館長代理（管理担当長）、栗山館長代理（学芸担当長）

■傍聴者 1名

■会議の概要

1 開 会

社会教育部長挨拶

2 議 事

（1）報告事項等について

- ・平成28年度秋期特別展
- ・平成28年度博物館文化祭

（2）平成29年度予定について

- ・平成29年度当初予算について
- ・平成29年度事業計画について

（3）その他

- ・事務連絡等

■議事および質疑

議題（1）報告事項等について

◆平成28年度事業のうち秋期特別展「知られざる平塚のロケット開発」について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委 員 一点は、東海大学や神奈川大学の学生と協力するのはとても良いと思うが、参加した学生の反応がどうであったかということを知りたい。

もう一点は、東海大学に勤めている身内に聞くと、学内ではこの展示に学生が関わっている

ことが知られていない。もったいないので、そちらの周知をされると良かったのではないかと思った。アンケートにも「東海大学が近くにありますが秦野市の広報には行事の案内がありません」というのがある。他市の広報に掲載するのは難しいと思うが、そちらの方も周知できると良い。

事務局 参加した学生の反応ですが、ロケットのサークル内だけで情報がとどまってしまった感がある。おっしゃる通り、学内全体に広がるように学生にも働きかけるべきだったと思う。参加した学生たちは、展示でも一生懸命にやっていただいたし、NHKの中継でも東海大学が主役に見えるくらい頑張ってもらったが、彼らが活動の状況や成果を自分たちの周りに伝える機会はあまり無いのかもしれない。今後もいろいろな団体と連携する企画があると思うが、連携した団体の周辺に対する周知も心がけていきたい。

今回の展示では国分寺市とも連携しており、国分寺市のロケット開発関係のパンフレットも置かせていただいた。そのパンフレットにはその後当館の学芸員が寄稿し、国分寺市の広報にも寄稿するということが続いている。

他市の広報誌との連携では、平塚市秘書広報課は茅ヶ崎市と相互協力しており、茅ヶ崎の広報には掲載された。秦野などの広報には今後働きかけてみたい。

委員 いろいろな制約がある中で連携を図っている点は頭が下がる。学生との連携では、こちらだけでなく参加する学生の方にも活動の成果を還元する貴重な機会なので、今後もこうした機会を提供してほしい。

事務局 学芸員の仕事を考えると、日頃学術的な研究をしており同じ研究分野で大学の先生とのつながる機会は多い。事業を実施するうえで先生や学生と直接話をするが多くなる。大学にもよるが、研究室ごとの独立性が高いというふうに感じられるので、大学の中での広がりも少なく感じる。連携の中で「こうしたアピールは如何ですか」という提案をしていきたい。

委員 NHKの中継があったということだが、公式チャンネルなどで放送してPRしたのか。

事務局 YouTubeには博物館のチャンネルがあるが、あまり動画の制作に慣れていないので、大火球や流星の映像ぐらいしか載せていない。中継の際も動画は上げていない。

委員 動画の活用は良いこと。せっかくの機会なので、もっと活用した方が良い。今のところ動画のアクセス数が少ないが、HPの下の方に入口があるが、トップページの上の方に入口を作ってはどうか。

平塚市の公式チャンネルでも平塚市博物館の紹介ビデオがあるが、最新の「魅力発見 平塚市博物館」の番組でも視聴数が556回だ。これも、素材がいいだけにもったいない。

事務局 博物館の動画チャンネルについては、コンテンツの数が少なく分野が偏っている状況。先日は天文分野でアップした流星の動画が、ニュースで取り上げられたことをきっかけに再生回数が伸びた。動画のページへの案内については、動画にアクセスするきっかけについて学んでいかなければならないと思う。

コンテンツの魅力がないわけではないと思う。そこへ来てもらう方策は、世間でも苦勞しているところだと思うので、それを学んでいくとともに、コンテンツを増やす努力をしたい。

委員 現在トップページの「更新情報」の下に「HIRAHAKU平塚市博物館YouTubeチャンネル」とあるが、トップページの上の帯の中に加えれば半年で急増すると思う。

事務局 HPのどこに、というのはページの構造的なこともあるので、まずはリンクがわかるようにという方法で工夫したい。

委員 私が居る大学では、化学系の学生にも生物について知ってもらおうという事業をやっている。その関連の情報を一週間前にHPに載せたが、やはり目立たない。しかし、一人の人間がずっと携わっていないとなかなか難しいところがある。先生がやればよいのだろうが、学生にやらせておくとまず更新できない。私は客員で行っているのでなんとかやれるが、居なくなったら即、消えてしまう感じがしないでもない。

そういう意味では、それに携わることができるようなノウハウのある人、あるいは外注ができるとか、そういうシステムが必要だと思う。今後私も勉強していこうと思うが、博物館でもできるところは変えていってほしい。

委員 Web関係は何名でやっているのか。

事務局 担当者は2名である。

委員 それは専任なのか。

事務局 学芸員が毎年の役割分担の中で担当している。ただWebの担当は毎年替わるわけではない。動画のコンテンツは分野によって作りやすい分野とそうでない分野があるので、工夫が必要だと考えている。

委員 Webコンテンツの充実というのは体力が要る。学芸員はいろいろな仕事をしているので大変なことだというのは承知している。しかし、平塚市博物館のHPを見ると伝わってくるものが多いということと、充分更新されていないということが気になっている。例えば「Webよみもの」なども、内容的にはものすごく充実している。ところが、先日まで広報ひらつかで「博物館モノ語り」が連載されていたが、かつての「ひらつか図鑑」や「ちょっと海まで」などはその後更新がない。こういうところが気になる。

Webを見たときに最終更新の日付が古いと、私は事情も知っているのですが、一般の方が見たときに更新の日付が古いとちょっと、という感じになる。

学芸員の非常にタイトなスケジュールの中でそこまでやるというのは難しいと思うが、HPは博物館の顔になるので、もう少し更新をした方がいいと思う。

一つ提案として、いろいろなワーキンググループのボランティアがいると思うので、その中にはWebの好きな方もいらっしゃると思う。こうしたボランティアの方もWebの更新作業などに携わるといえるのはどうか。そんなに難しくないとと思うが。

事務局 関心をお持ちの方はいらっしゃるが、HPを作るにあたってどのようなポリシーで作るかについては館の方でルール化してコントロールする必要がある。こうしたルールの教育を経なければお願いできないという、かなり高いハードルがある。その教育に係るコストを考えると、必ずしも有効な方策かどうかは検討が必要だと考える。

事務局 HPで「連載」コンテンツの更新が進んでいないのは御指摘のとおりで、学芸員の中でも必要性は認識している。

そこで、「連載」ということで原稿を載せ続けるのは大変なので、各分野で最新の情報をブログという形でどんどん更新していくやり方を考えている。そうして、日々新しくなる部分を作っていく方がいいのではないかと考えている。

ボランティアの方の中でも詳しい方がいるのではないかとということだが、現実的にはHPの更新までできる方はそう多くないと思っている。

委員 すぐには解決できないと思うが、検討していただきたい。

私は、学芸員は館長を含めて「研究」が第一だと思っている。その中で広報をやりながら、あるいは市民と活動していく、特に市民との協働は大切な仕事と思うが、それと自分の研究との両立。国立等の博物館であれば仕分けができるが、すべて一人がやらなければならないということになっている。これはかなりしんどいことだと思う。スタッフも予算も少ない中で、学芸員一人一人に負担がかかってくることなので、私の本当の意見としてはもっと研究を頑張ってもらいたい、ということもある。研究に携わる時間が無ければ無いほど中身が薄れて行く。そうすると、今は市民の方でも専門的な知識を持っている方がたくさんいるので、すぐ追いつかれてしまう。そういう意味では「研究」を主体としながら、それをうまく広報して行くのが一番大事なことだと思う。そのバランスが難しいところ。

なかなかパーフェクトにはいかないものだが、少しずつでも前向きに検討していただきたい。

委員 私はあくまでも市民の方から見た目で言っているのですが、当然のことながら学芸員の事もわか

っている。見方を変えた意見としてとらえていただきたい。

◆平成28年度事業のうち「博物館文化祭」について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 一日あたりの入館者数が多いが、行事開始当初から右肩上がりですべて伸びているのか。

事務局 開催期間中の入館者数は2,000人前後で推移している。期間がさほど長くないので変動要素として期間の長短や天候に左右される。

委員 文化祭の開催にあたって印刷物は出るのか。

事務局 リーフレットとポスターを作成している。リーフレットは無料で配布している。

委員 こういうものが出ることで発表グループの意識が高まる。学芸員はその分苦労するが、こうして継続していくと、良いデータにもなるし、活動している人たちの気持ちも高まってくるので、より充実させてほしい。

委員 文化祭の活動報告会に参加した。その中で発表するという形はいつから始まっているのか。

事務局 平成11年度の第1回（当時の名称は「博物館まつり」）から発表会は実施している。発表でどのような内容を発表するかについては年度によって変えている。ここ数年は活動の成果の発表が中心だが、以前は活動内容の紹介というものもあった。

委員 それぞれのグループの発表については、発表を楽しみにしている方が多くおられて、発表者も一生懸命で良いことだと思った。ただ、素人だから仕方ないかと思いながら、発表の仕方について学芸員のアドバイスがもう少しあった方が良かったのかなと感じた。

事務局 我々学芸員はしゃべるのも商売の一つだが、やはり参加者の皆さんにとって大勢の観客の前での発表は慣れてないので、気持ちをほぐすのが精いっぱいだった。

事務局 発表の内容を楽しみに来場いただいた方には、多少ご不便な思いをさせてしまったかなと反省している。

一方で、発表会を一つの教育機会ととらえている。普段フィールドで調べることと、そのことを人に伝えるために言語化するというこの間には、かなり大きなステップがある。それを行うことがそれぞれのワーキンググループの方のスキルを向上させることにつながっていると認識している。ただ、発表するにはこのぐらいのスキルが必要、ということは心掛けたい。

委員 博物館文化祭が、それぞれのグループの成果を発表する場として貴重だということは当然だが、博物館の活動というのはこういうものだ、ということコンパクトに周知・宣伝する場としてとても有効だと感じた。アンケートの感想の中で「平塚市博物館はいつも面白いことをやっている」というのがあるが、このように感じてもらえるのは大成功。

グループに関わっている方以外の一般の方が参加される割合は、印象としてどのくらいか。

事務局 入館者数で見ると、特別展開催中の多い日の人数ぐらいは来られているので、参加者以外の方も多いかなという印象。ただ、活動報告会についてはだいたい知っている顔なので、改善の余地はあるかと思う。

委員 いろいろな工夫をされている。「空襲と戦災を記録する会」の実演では子どもたちと語り合うなど、参加者以外の方も巻きこんで興味を持ってもらおうとしている。素晴らしいと思う。

委員 展示の中で「平塚に伝わる俗信」という体験型の展示があり、自分が知っている俗信にシールを貼るというのがあり、これは去年もやっていた。継続的なものは文化祭だけで終わらせるのではなく、結果を活かしてほしい。これはそのグループに言うことかもしれないが。

事務局 去年の結果は活動報告会で発表されていた。毎年続けていくとそこに変化が見られることもあるので、積み重ねることも大切だと認識している。他のグループについても、年間会員制行事は何年も継続するものが多いので、その点は学芸員も意識しており、成果を活かすチャンネルを工夫していきたい。

委員 一昨年秋の特別展で「相模川流域をジオパークに」というテーマを投げかけたが、その後動きがあったか。

事務局 特別展のタイトルとしては「相模川流域をジオパークに」としているが、具体的に構想を進める方針に基づいているものではなく、話が進んでいることはない。流域の自然や景観を「ジオサイト」という形で紹介したもので、実際に進めようとするとは博物館単体ではとても動くものではない。

委員 「ジオツアー」という行事に参加したが、他にも30名程参加して博物館の行事の中でも人気がある。せっかく投げかけをしたのだから何か進めたい気持ちもある。

事務局 「相模川流域をジオパークに」という特別展のテーマは、相模川という地域の持つ地質的な特徴や「見て楽しむ」という観点から地域にアプローチしていくことの価値の比喩としてジオパークという用語を使った。実施にあたっては流域の自治体や施設の協力もいただいているが、必ずしもジオパークという制度にあてはめていこうという施策ではない点を了解していただきたい。

ただ、その視点を継続することは可能だと考えており、ジオパークという用語を使うかどうかは別として、他の自治体や施設との連携は続けていきたいと考えている。

委員 私も最初は「ジオパーク」と聞いて驚いたが、生物関連では神奈川県が地質が生物にも大きな影響を与えていることを考えると、ジオパークという切り口もずっと後にいろいろな花が

咲いてくるのではないかと思う。

おそらく神奈川県内の博物館でもそういう観点での博物誌というものがしっかりと出てくると思い、とりあえず面白かったなと考えている。

議題（２）平成２９年度予定について

◆平成２９年度当初予算について、事務局縣管理担当長が説明資料により説明。

委員 予算の明細で教育普及活動推進事業の旅費が減っている。学芸員の調査研究に支障が出ないかどうか心配。この業界のあちこちで聞くのは、予算が無いので自腹で調査研究、出張するという話だが、本来良くないことでありあってはならないこと。博物館に言うのではなく市の当局に言うべきことかもしれないが、調査研究に支障が出ないようにしていただきたい。

事務局 旅費についてはしっかりと確保していきたいと考えている。２９年度に減額しているのは協議会や研究会等への参加に伴う出張旅費の差で、開催地が近距離になると減額する。経常的な活動旅費に係る減額ではない。

委員 科学教室の丸椅子のシートが破れている。物品修繕費が計上されているが、丸椅子の修繕はできるだろうか。

事務局 今回、丸椅子を想定した修繕料は確保していない。

博物館自体が古い施設なので修繕しなければならないものが、あまりにも多すぎる状況にあるが、丸椅子も修繕対象としてリストに加えていく。

委員 予算という大きな話になるが、市民の目からすると細かいところが気になる。運営する側の感性になるが、細かいところが大事になる。はじめて連れてきた妻が「博物館は暗いね」という印象を言っていた。

事務局 中に入ると気付かないが、市民からはこういうところが気になるという、貴重な実例。ありがたい。

委員 かつての博物館は暗いイメージがあったが、今の若い子はトイレひとつとってもちょっと汚いともうそこへは行かないとか、そういうレベルで動く。

委員 展示物には光の影響があるので暗いのは当たり前だが、その説明をどこかでしておく必要があるかもしれない。

委員 展示の暗さではなくて、全体的なイメージで入りづらいということがあるのではないかという投げかけである。

事務局 「明るさ」というのは博物館全体の課題かと思う。これは今後研究していくべきことかなと

思う。

委員 二週間ほど前、スウェーデンのいくつかの博物館に行ったが、日本と比べて全体に広くて整然としており、備品がきれいに整備されている。博物館に対するイメージが諸外国と日本とでは全体的に違うのかなと感じる。どちらが良いかは別として、博物館のイメージアップにつながるように考えたい。

◆平成29年度事業計画について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 郷土史入門講座に私も参加している。非常に参加者が多くびっくりしたが、年代を見ると若い人でも60代。60代後半から70代後半ぐらいの方が大半ということで、高齢の方の場合こうした行事を開催してもらおうと参加できるということで、大変関心を持たれているようである。こうした行事をたくさんやってほしいと思っている。

もう少し若い世代の方が参加するようなものができればいいと思うが、なかなか難しいのだろう。

委員 「みんなで調べよう セミのぬけがら調べ」は幼稚園児も多い。

委員 子どもが参加すれば親もついてくる。

議題（3）その他

◆議題以外の話題等。

事務局 前回秋期特別展を御案内したので、特別展について御意見を伺いたいと考えていたのだが、本日これまでの議事の中で幅広い御意見をいただいた。

一つだけ、博物館にとって子育てや教育にとってどのように貢献できるのかということが大きな課題と考えている。特別展のテーマということについて、学校や教育という面から御意見を頂ければと思う。

委員 低学年の子どもたちは虫関係が好き。休み時間になると学校の草むらで虫を探していたり、登校のときに探していたりする子もいますから。理科では石ころとか地層など、大地の成立などは高学年になると扱う。博物館でやっていることがタイムリーにおりてくると、学校でもアナウンスしやすい。

地域行事でも、去年は「どんど焼き」や「凧づくり」などの行事に行くように声掛けをしたが、そういうことを知らない子が意外に多い。お年寄りの方もいるにはいるが、子どもに話ができるお年寄りはあまりいないようだ。

学校の社会・理科・生活の中で紹介できる題材というのも、学校から博物館に「こんなこと

を授業で扱います」という連絡ができたり、博物館からも「こんなものが授業の中で使えますよ」というのがあったりすると良い。

学校には「あなたと博物館」が送られてくるので、先生方にも興味を持ってもらえるといいのだが、なかなか実際にはそこまでいかないのが現状。

6年生は歴史から始まるので、縄文土器作りなどをやっている学校もあり、年度の初めから投げかけができると思う。博物館に来てみようかなという子も出てくるかもしれない。

事務局 参考になった。ありがとうございました。

◆次回の日程について調整して会議を修了した。

以 上

配 布 資 料

平成28年度秋期特別展「知られざる平塚のロケット開発」開催報告

- 会 期** 2016（平成28）年10月22日（土）～12月18日（日）
- 主 旨** 日本のロケット技術は戦後ゼロから始まったと広く知られているが、戦前の平塚にはロケット推進薬の開発・生産拠点となった海軍火薬廠があった。火薬廠ではロケット推進薬の成形技術が開発され、日本の固体ロケット技術の基礎になった。本展示ではロケット技術の変遷を概観するほか、現在の平塚市で製造されているロケット製品について紹介する。また、東海大学、神奈川大学の協力で、学生が取り組んでいる新しいハイブリッドロケットについて紹介する。
- 展 示 構 成** 第一章：平塚から始まった日本のロケット 第二章：戦後に伝わったロケット技術 第三章：現在における平塚のロケット

入 館 者	入館者数			開館 日数	こどもの 割合	平均入館 者数/1日
	大人	子ども	合計			
10月	1780	842	2622	8	32.1%	328
11月	3603	1756	5359	26	32.8%	206
12月	2158	698	2856	16	24.4%	179
期間計	7541	3296	10837	50	30.4%	217
27年度	4433	2095	6528	43	32.1%	172

- 「後世に残したい相模川流域の地球遺産－相模川をジオパークに－」（10/17～11/29）
- 関 連 行 事** 記念講演会「日本のロケットの歴史」 （参加 80名）
 的川泰宣 氏（宇宙航空研究開発機構 名誉教授）
 11月12日（土）15:30～18:00
- 記念講演会「大学のハイブリッドロケット開発」 （参加 36名）
 東海大学・神奈川大学学生
 12月18日（日）15:30～17:00
- 宇宙開発講座
 藤井大地（平塚市博物館学芸員）
- ① 宇宙ロケットを設計しよう （参加 23名）
 10月23日（日）15時30分～17時
- ② 宇宙ミッションを組み立てよう （参加 11名）
 11月6日（日）15時30分～17時
- 特別展展示解説
- ① 10月23日（日）13時～13時45分 （参加 20名）
 ② 11月20日（日）13時～13時45分 （参加 25名）
 ③ 12月10日（土）13時～13時45分 （参加 23名）
- コズミックカレッジ・キッズコース
 藤井大地（平塚市博物館学芸員）
- ① ストローロケットを作ろう （参加 35名）
 10月22日（土）13時～13時30分 （参加 29名）
 12月4日（日）13時～13時30分 （参加 37名）
- ② 傘袋ロケットを作ろう
 10月22日（土）15時30分～16時 （参加 19名）
 12月4日（日）15時30分～16時 （参加 38名）
- ③ 紙コップロケットを作ろう
 10月30日（日）13時～13時30分 （参加 20名）

- ④ フィルムケースロケットを作ろう
10月30日(日) 15時30分～16時 (参加 35名)
 - ⑤ 風船ロケットを作ろう
11月5日(土) 13時～13時30分 (参加 28名)
 - ⑥ わりばしロケットを作ろう
11月5日(土) 15時30分～16時 (参加 55名)
 - ⑦ スーパーボールロケットを作ろう
11月20日(日) 15時30分～16時 (参加 44名)
- コズミックカレッジ・ファンダメンタルコース「火薬ロケットカーを作ろう」
藤井大地(平塚市博物館学芸員)
- ① 11月13日(日) 13時30分～16時30分 (参加 52名)
 - ② 11月19日(土) 13時30分～16時30分 (参加 33名)
 - ③ 11月27日(日) 13時30分～16時30分 (参加 45名)
 - ④ 12月3日(土) 13時30分～16時30分 (参加 60名)
- プラネタリウムでロケット打上げ生中継
11月2日(水) 15時～15時30分 (参加 17名)

印刷物

図録「知られざる平塚のロケット開発」
A4判 64頁 カラー 1000部 頒布価格 ¥700-
開催期間内頒布部数：359部

ポスター B3判 カラー 400部
リーフレット A4判 カラー 2500部

アンケートの結果

回収枚数 101枚

回答者の住所 平塚市内 46名、平塚市外神奈川県内 37名、神奈川県外関東地方 13名
関東地方以外 2名

回答者性別 男 73名、女 22名、

回答者年齢	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	15名	1名	7名	24名	17名	23名	12名

情報の入手先 広報ひらつか 27名、博物館のホームページ 8名、
(複数回答可) 新聞等 7名、ポスター 5名、その他 42名

おもしろさ	とてもおもしろい	ややおもしろい	ふつう	ややつまらない	つまらない
	59名	27名	8名	3名	1名
	58.4%	26.7%	7.9%	3.0%	1.0%

総合評価	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
	60名	31名	5名	2名	1名
	59.4%	30.7%	5.0%	2.0%	1.0%

ご意見・ご感想

- ・ これだけの貴重な資料を見せていただきありがとうございました。未来の為にロケット開発スタッフを心から応援申し上げます。平塚市民より！！（50代・男）
- ・ わかりやすい企画を！！（40代・男）
- ・ もっと大々的にやっていたいのでは？
- ・ 実験ノートや計算式等、直筆のものが展示されていて、とても良かったです。
- ・ 数年ぶりに来館しました。展示物が色々変わっていて、とても新鮮でした。また来ようと思いました。ありがとうございました。
市内には知られざる高度な技術をもった工場があるのだなあ
- ・ 昔、ゴムの外注メーカーでした。約 35 年前に加工した、部品を見て良かった。インコ 718 は、当初穴加工も難しく、涙を流し、禿ながら開発加工を思いだしました。
- ・ 説明員の丁寧な解説で好感が持てた。
- ・ 資料が多く、日本のロケットの生い立ちが理解できた。
- ・ 難しすぎる。順番か矢印で。文章が長すぎて読むのが大変すぎる。
- ・ 宇宙を目指す前のロケットのはじまりの時期から、未来へ繋がる若者たちへのロケットへの挑戦まで、非常にまとまりのよい特別展だと思います。
- ・ 当時の関係者の話等があればなお良。
- ・ 兵器開発から観測ロケットへ至る道を知りたかったが、それがよく書かれていた。
- ・ 良かったが、あまりに文章が多く、子供たちは全く読んでなかった。但し、非常に簡潔で必要最小限に限った説明は素晴らしいと思います。
- ・ 「イトカワ」で有名になった糸川さんの詳しい研究の経歴がわかって、興味深かったです。
- ・ 説明が丁寧でわかりやすかった。一部、ロケット飛行機の名前の漢字のよみがわかりにくい所があったのでふり仮名があるとよいと思いました。高校生以下の子供にはわかりにくいので、もう少し工夫があるとよい。
- ・ 戦前から平塚で固体ロケットの研究が行われていた事を初めて知り面白かったです。
- ・ 内之浦までの道のりが懐かしかった。種子島以降しか知らない世代にはなじみにくかったかも
- ・ 平塚にロケットに関する会社がこれ程沢山あるとは知りませんでした。
- ・ 平塚が大きな役割を果たしていた事が判り非常に興味深く感じた
- ・ 旧軍の火薬技術とペンシルロケットの火薬が、人を介して繋がっているのがよく分かりました。
- ・ 日本の宇宙開発史を調べております。ペンシルの源流が気になっていましたが、火薬方面が分かりませんでした。今回の展示で、戦前とつなげることができました。ありがとうございました。
- ・ 増田為江氏はどんな人か、増田和之氏がいろいろ資料を提供されているがどんな関係か興味あります。
- ・ 戦後の開発史がプロジェクト X 風で興奮した。
- ・ 市内の技術史をもっと知りたい。
- ・ 平塚にロケットがあるのがびっくりで市庁舎建設時に不発弾があるとのウワサもあったのでもしかしたらどこかにあるかもという気もします。
- ・ これまで知らなかった火薬廠の当時の仕事分かり、断片的な知識が結びついて良かった。
- ・ 見易く工夫して展示してあり、時間を忘れてみました。ありがとうございました。
- ・ えんじんがとてもリアルですごい！私からしてはとてもこわい。また来たいです。
- ・ もう 1 度ゆっくり来たいです。
- ・ 工学に関する展示は初めて見ました。すごいことだと思って見に来ました
- ・ 戦後前の状況、桜花で改めて戦争の残酷さを知りました。
- ・ あまりにも小さなロケットからの始まりに驚きました。
- ・ 専門的で素人には覚えにくい

- ・大変楽しく拝見できました。又、機会がありましたら、企画をお願いいたします。
 - ・東海大学、神奈川大学のロケット研究の紹介が、特別展の内容を身近に感じさせてくれました。
 - ・コンパクトにまとまっていて全体の流れがよくわかった
 - ・開発ノート、手に取れるところが良かった。
 - ・日本のロケット開発の歴史がよくわかる。特に戦前の状況がわかりよかった。旧平塚火薬廠の歴史もよくわかった
 - ・今スマホで遊ぶ小中学生に見学させたい。ベビー頭部のカメラなど多くの技術の見学が必要です。
 - ・むずかしくて…筑波でロケットを見たので興味があり来ました
 - ・日本に限らず、ロケット開発というのは常に軍事技術と切って離せない関係にあります。そういった負の面に光を当てつつも企業や学生の手によるロケットへの携わり方を示して締める見せ方は大変良いものでした。
 - ・くわしく書かれていてとてもわかりやすい。ノートがきれいにまとめられていたので印象的でした。
 - ・戦争遺構系は以前にもありましたが良かったです。
 - ・日本の初期のロケット研究について沢山の資料を用いて（動画も含む）詳しく解説されているので、大変参考になりました。
 - ・私も宇宙に行くロケットを作りたいが、家がまずしく勉強出来なかった、残念
 - ・ISASの写真等つかっていただきありがとうございました。
 - ・JAXAの協力をもっともらえたいと思います。遠慮なくどうぞ
 - ・ロケットに関わるいろいろな様子や出来事はわかりやすく展示されていました。今も学生さんが受け継いでいることに感動しました。
 - ・藤沢市から初めて来ました、平塚市には美術館や博物館がありとてもうらやましいです。高校生と大学生の親なのでこのような展示を通して将来に活かしてもらえたらと思います。
 - ・秦野市在住です。東海大学が近くにありますが秦野市の広報には行事の案内がありません。けいさいしてほしいです。子供に興味をもって学んでほしい。
 - ・ちょっと内容がむずかしかった。パネル説明が多すぎたような感じです。
 - ・HII B ロケットの話がなかったので残念
 - ・まず、アンケートは鉛筆が原則です。博物館ではインクのものは使用しないってならいませんでしたか？改善してください。さて、ロケット展。なかなかのものである。「とても良い」でもいいのだけでも、展示方法や解説（ガチガチの産業史、軍事史、航空史だし何か本を読まされているさっかくにもおちいるし）、さらに火薬廠の事（企画展でやりましたか？）をもう少し解説が欲しいと思い、評価を下げたしだいである。
- とは言え、愚直に平塚での火薬製造、日本のロケットのあゆみ、そして現在の平塚ロケットのかかわり（これは発見でそうか！と思うことたびたび）を悟っていく中から地域と技術、技術と戦争と平和とのかかわり、等が見えてくる誠実な展示と思う。個人的には「ロケットは平塚から」と始まり、もはや関係ないのかなと思ったら、実は今も支える技術や学ぶ人々がいるという第3章がなかなか good である。ニクイネこの！産業史・技術史の展示会としてもなかなかのものと思うが、もっとみてもらいたいなあと思う。まあ一応技術系の私がみてもくらくらするくらいガチガチの技術の話なので、もう少し展示の工夫があっても良かったかなとも思うのが残念。とはいえみごたえ十分。無料で申し訳ないくらいです。いい仕事でした。パチパチ。
- ・また同様の展示を行ってください。面白かったです。
 - ・実際にどこで実験が行われたかを地図で示してほしい。

「第18回博物館文化祭—サークル活動 展示・発表・実演—」実施報告

- 1) 会 期 平成29年1月14日(土)～22日(日)
- 2) 展示会場 平塚市博物館特別展示室
- 3) 主 催 平塚市博物館、博物館文化祭実行委員会
- 4) 主 旨 博物館で活動する会員制サークルが、活動成果の発表を通じて相互の交流を深めるとともに、市民に広くその活動内容を紹介することを目的に開催した。
- 5) 参加サークル お囃子研究会、聞き書きの会、古代生活実験室、石仏を調べる会、展示解説ボランティアの会、天体観察会、平塚の空襲と戦災を記録する会、平塚の古代を学ぶ会、民俗探訪会、星まつりを調べる会、相模川の生き立ちを探る会、平塚学講座(以上12サークル)
- 6) 運営状況 準備と運営は例年どおり実行委員会形式で行った。参加サークルから各1名以上選出された実行委員で実行委員会を組織した。終了後の反省会を含めて計5回の実行委員会を実施し、開催に向けた意見交換や諸準備を行い博物館の事務局と調整を図りつつ諸事を進めた。実行委員長は室絃子氏(平塚の空襲と戦災を記録する会)が務めた【表1】。

開催告知用ポスターは、各会にデザインを募り、庁内カラーコピー機で作成した。4種類のポスターデザイン(石仏を調べる会、天体観察会、平塚の空襲と戦災を記録する会、民俗探訪会が作成)を計400部印刷した。パンフレットはA5縦判16頁とし、700部印刷して発送を実行委員会で行った。ポスターは市内の広報掲示板への掲示をはじめ、パンフレットと合わせて市内の小中学校と公民館、市外の図書館・博物館へも送付し、行事の周知に努めた。

展示は、各サークルの活動成果を実物や模型、ポスター形式の説明で実施した。関連行事として活動報告会と5本の実演を行った。開催期間は春期特別展の開催時期との都合上、1月14日(土)～22日(日)の8日間となり、例年よりひと月早い開催で、短期間となった。

前年度に引き続き展示会場に質問掲示板を設置した。観覧者が展示内容への質問や意見を質問用紙に記入してホワイトボードへ掲示し、それをサークル会員または担当学芸員が回答して再掲示するというもので、質問と回答を全体で共有することを主な狙いとした。会期終了後も、ボードを寄贈品コーナーへ移設し1月29日(日)まで設置して対応した。質問用紙は10件が掲示された。

会期中の入館者は2019人、一日平均261人であった【表2】。

【表1】第18回博物館文化祭実行委員会の日程

回数	月日	主な協議内容	人数
第1回	8月23日(火)	実行委員会の設立、スケジュール確認、参加確認など	11名
第2回	10月5日(水)	展示の割り振り、リーフレットの内容、提案事項など	12名
第3回	11月9日(水)	サブタイトル、活動報告会、質問掲示板の検討など	13名
第4回	12月14日(水)	詳細確認、ポスター・リーフレットの製本と発送	12名
第5回	2月8日(水)	反省会	10名

【表2】過去6年間の文化祭入館者数

	大人	こども	計	日数	こどもの割合	1日平均
28年度(2017 1/14~1/22)	1421人	670人	2091人	8日	32%	261.3人
27年度(2016 2/6~2/21)	2279人	1036人	3315人	14日	31.3%	237.0人
26年度(2015 2/1~2/15)	1697人	656人	2353人	13日	27.8%	181.0人
25年度(2014 2/2~2/16)	1200人	451人	1651人	13日	27.3%	127.0人
24年度(2013 1/27~2/11)	1744人	773人	2517人	14日	30.7%	179.8人
23年度(2012 2/4~2/19)	2462人	600人	3062人	14日	19.6%	219.0人

7) 展示サークルとタイトル

サークル名	展示タイトル
天体観察会	2016年度の天体観察会の取り組み
展示解説ボランティアの会	博物館と市民の橋渡し 私達の一年間の取り組み
相模川の生い立ちを探る会	相模川の生い立ちを探る会活動報告
古代生活実験室	実験考古学ー私たちグループが目指すものー
平塚の古代を学ぶ会	相模国庁模型制作プロジェクト
お囃子研究会	お囃子研究会の一年
星まつりを調べる会	里に降りた星たちを訪ねて
民俗探訪会	大山道を歩く・平塚に伝わる俗信
聞き書きの会	『記憶をつないで』ができるまで
石仏を調べる会	田村・横内地区の石仏

8) 活動報告会

1月15日(日) 13時～16時30分 会場講堂 参加自由 参加者83名

時間	発表サークル	発表タイトル	発表者
13:00	実行委員長	開会あいさつ	室 紘子
13:10	石仏を調べる会	～信仰と物見遊山～田村通り大山道	宮田 光正
13:40	平塚の空襲と戦災を記録する会	平塚空襲と鉄道被害	末吉菊次郎
14:10	民俗探訪会	平塚の俗信	吉川 裕子
14:40	休憩		
14:55	平塚学講座	学習成果発表	講座受講生
15:25	展示解説ボランティアの会	おしえて博物館	中村 輝夫
15:55	天体観察会	天体観察会研究コース・2年半の歩み	永井和男
16:25	博物館長	閉会挨拶	澤村 泰彦

9) 実演： いずれも参加自由

サークル名	タイトル	日時	会場	人数
民俗探訪会	とんきよばなし・怪奇ばなし	1月14日(土) 13:00～13:50	古民家	19名
お囃子研究会	みんなで叩くお囃子体験会	1月14日(土) 15:00～16:30	相模の家 と講堂	18名
天体観察会	太陽黒点観測の実演	1月15日(日) 10:00～12:00	屋上	39名
平塚の空襲と戦災を記録する会	キャッチボールトーク2 未来を担う子ども達と平塚空襲を考える	1月22日(日) 13:00～15:30	講堂	41名
天体観察会	天体観察会会員によるプラネタリウム投影	1月22日(日) 15:30～16:30	プラネタリウム室	64名

10) 印刷物：

リーフレット A5判 16頁 庁内印刷 700部

ポスター A3判 庁内カラーコピー 400部

1 1) 来場者アンケート結果：

○回収枚数 2枚

○記入者の住所 平塚市内1、平塚市外県内1

○開催情報の入手

広報ひらつか1、その他1(当日)

○満足度

興味深い2 やや興味深い0 ふつう0 ややつまらない0 つまらない0

○難しさ

非常にわかりやすい0 まあわかりやすい2 ふつう0 やや難しい0 非常に難しい0

○総合評価

とても良い2 まあ良い0、ふつう0 もう少し0 良くない0

<感想・ご意見>

- ・各サークルの研究・写真などをHPに掲載してほしい。または参考資料配布。(60代・男)
- ・いつも平塚市博物館は面白いことやってるなあ…今まで色々な博物館・美術館・プラネタリウム通ったけど、ここが一番好きです。私は。他の所は質問しても「何でそんなことも知らないの？」みたいなのがちょっと…。でもよく見たら期間短か…。もっと長くても良いんじゃないだろうか…と思いました。展示内容の話を友人知人様にして面白く、盛り上がりました。特に俗信、自分たちの知ってるのとは一寸違う？みたいなのもあって気になって。(20代・女)

<調べたい・知りたいと思っていること>

- ・いつから活動していたのか？遺跡。
- ・「新しい事を知って楽しいよー！」と、教えていただいた事などを誰かにやさしく伝えられるように出来たら良いなあとは思ってはいるのですが、言葉が上手くないのでなかなか…。知ってるコトなら頑張って伝えて、知らなかったら一緒に知ろうとする、そのような存在でありたい…。秋期のイブニングミュージアムのトークはとても面白く、各学芸員様には心よりお礼申し上げます。

1 2) 質問用紙 :

揭示数 10 枚

対象サークル	ご質問・ご意見	回答
平塚の古代を学ぶ会	<p>解説前で、写真横のレイアウトでもよかったな…と思ったり。</p> <p>相模国庁模型製作プロジェクト、とても興味深かったです。設計図はどのように作られたのでしょうか？参考文献があったのですか？遺跡などの発掘で判ったデータが基なののでしょうか？どのくらいお時間をかけてるのかも気になりました。</p>	<p>ご質問ご意見ありがとうございます。</p> <p>①展示解説資料のレイアウト（解説／写真）は今後検討させていただきます。</p> <p>②石庁模型の制作は悉く平塚四之宮を中心とした国府行発掘調査の実測データを基本に設計しております（縮尺1/50）</p> <p>③たとえば発掘された掘立柱の間隔から国庁全体のスケールを推定し、柱の太さや基礎工法から建物構造や重量推定を行います。</p> <p>④又、発掘出土品から当時の生活様式を推定し、国庁建物の使用目的に対応した屋根、窓、壁、色彩など決定していきます。</p> <p>⑤そのために古代（8世紀）の文化の理解から始まり、当時の建築工法、材料の調査、職人の技量などにまで思いを馳せ、座学輪読、他府県事例調査などに3年掛りました。模型の制作も制裁なるが故に思いのほか、時間がかかり、今年も3年掛りました。</p>
相模川の生い立ちを探る会	<p>展示されていた2か所のルートですが、所要時間が気になりました。どのくらい時間をかけて巡るのでしょうか？</p> <p>「数時間で回れるよ」というのか。「いやいや、ここはじっくり時間をかけて1日かかりで…！」なのか、と。ちょっと行って見てみたいです。個人的には解説はもう少し下の方が見やすかったかな。</p>	<p>どちらのコースも丸一日かけて歩きました。「探る会」では概ね2か月に一度、一日かけて野外観察を実施しています。</p>
民俗探訪会	<p>「ひらつかの俗信」の24の「セイト」って何だろう？火に当たるっていうのはどんと焼きだかどんと焼きだろうな…とは思ったのですが。</p> <p>60年くらい平塚に住んでる方（平塚生れ平塚育ち）に「セイトって何？」と聞いたら「何ソレ？」と返されました。多分どんと焼きの事だろうなとは思ったので「大磯だと左義長だよね？」と言うと「50年前でも平塚ではどんと焼き」と言われました。「ええ？でもセイトって書いてあったよ。」と返したら「サイトは知ってるけど、横須賀の呼び方だしなあ…」と。ちなみに平塚駅近くの方です。（サイトは知っててセイトは知らない模様）セイトってどこの呼び方なのでしょうか？地域的なものですか？感じとかあるなら教えていただくと幸いです。</p> <p>大山阿夫利神社の御祭神「高麗神」について教えてください。京都・貴船神社の御祭神との関係などについて。</p>	<p>平塚の須賀町の辺りではだんご焼きをセイトバレエ（斎度揃い）といって短くセイトともいっていました。大磯の左義長もセイトの一種です。また、だんご焼きはどんと焼きのことです。</p> <p>海・雨を司る神であり、関東の貴船神社の祭神であり、京都の貴船神社と祭神は同じです（京都から迎えた神です）</p>

石仏を調べる会	<p>石仏の整理を魂抜きとありましたが、あれは最近よく耳にするようになった「墓じまい」と同じような作業という認識で良いのでしょうか？そういう時の費用は地域の方の募金などになるのでしょうか？保存・処理にしても一個人でという訳にはいかないと思うのですが各地域の集まりなどで決められるのでしょうか？判断基準が気になります。</p>	<p>市内の石造物を調べ始めてから現在までに消失が確認されたものは約 170 基で、その大部分が寺院や神社にあったものです。これらは寺院や神社の改修に伴い、撤去や移転されたもので、檀家や氏子の意見を入れて行われ、費用も改修の一環として算出されます。かつては撤去や移転に際し、経文や祝詞をささげてから行っていたようですが、現在も行われているかどうか定かではありません。また路傍の石仏についてはケースバイケースで、新しい石仏を造立する際に古いものを撤去することが一部にはあるようですが、大部分は新しい石仏の傍らに置かれております。</p>
	<p>「荒母神」は何の神様かわかったら教えてください。いろいろあるなかで一つか二つ教えてください。</p>	<p>一般的には脚の神、旅の神とも言われています。ハバキ神は関東や東北では外から来た客人神として知られている神で、旅の守り神とされてきました。そして旅から脚の神→腰から下の諸病の神へとなくなっていったと考えられます。別の考えでは、記紀神話以前の土着の神で、記紀神話の神々に母屋を取られ、門前神として細々と残ったという説もあります</p>
天体観察会	<p>「ステラリウム」という PC ソフトがありまして、使用方法が判りません。参考となる本がありましたらお教えてください。また、説明会がありましたらお教えてください。</p>	<p>ステラリウムは海外のソフトで残念ながら日本語の解説書は出ていません。『天文教育』という雑誌の 2010 年 11 月号に簡単な紹介記事はあるようです。</p>
	<p>天体写真、良いなあ…！と思うのですが、写真展に行くときよく撮影者さんがカメラの値段やら撮影にかけた時間やら撮影地までの旅費 etc 自慢げに語られているので「自分の安っすいカメラで申し訳ない…」という気分させられます。良いカメラは使われてるんだろなと思うのですが、他にどんな道具を使われているのでしょうか？</p> <p>流星カメラは1号の情報も出しといたら2号との比較とかできたのかなーとか、幾ら位で作れるのかなー、とか、どうやってデータ集計してるのかなーとか、報告会不参加でもちょっと判ると良かったかも。ちびっこが「あれ何座ー？」と言って親に聞いてたの見たのでオリオン座って書いてくともっと良かったかもしれせんね。カメラに撮られてるのはビックリでした。もっと大きく書いてて良かったかも。</p>	<p>天体写真ですが、天体がアップで写っているもの以外は、基本的にカメラ（一眼レフデジタルカメラ）のみで撮影しています。ポータブル赤道儀を使っている写真もありますが、そんなに多くはありません。</p> <p>流星号についてはまだ未完成な点もあったので御容赦を…</p>
星まつりを調べる会	<p>南足柄市の観光マップは今も入手できますか？</p>	<p>観光マップ配布については、お手数ですが南足柄市商工観光課へお問い合わせ下さい。公式ホームページからもマップの内容はご覧いただけます。</p>
	<p>星の神カガセオについて調査してください(荒ぶる神)。星神社御神体になってます</p>	<p>星まつりを調べる会は、今年度で終了するため、今後の調査予定はありません。天香香背男は日本書紀に名がみられる星神で、天津甕星も同一とみられるそうです。勝俣隆『星座で読み解く日本神話』（大修館書店、2000年）に面白い考察があります。</p>

平成29年度 社会教育部予算

	(単位:千円) 平成28年度当初	(単位:千円) 平成29年度当初	(単位:千円) 前年度比
一般会計当初予算 合計	82,250,000	85,550,000	3,300,000
教育委員会予算(教育費) 合計	6,583,417	8,347,153	1,763,736
社会教育部(職員給与費除く) 計	1,010,185	1,053,042	42,857
社会教育費(職員給与費除く)	868,461	908,158	39,697
社会教育課・・・社会教育総務費	47,175	71,555	24,380
中央公民館・・・公民館費	375,667	374,031	-1,636
中央図書館・・・図書館費	186,240	184,404	-1,836
博物館・・・博物館費	86,692	80,447	-6,245
・・・市史編さん費	5,198	11,529	6,331
美術館・・・美術館費	167,489	186,192	18,703
保健体育費(職員給与費除く)	141,724	144,884	3,160
スポーツ課・・・保健体育総務費	48,423	48,654	231
・・・体育施設費	93,301	96,230	2,929

29年度博物館事業及び予算概要

1. 概要

平塚市博物館は、豊かな人間形成の一助を担うことを目的に、過去・現在・未来にわたる「相模川流域の自然と文化」を展望し、歴史・考古・民俗・生物・地質・天文の各分野の視点を複合させ、地域に密着した展示活動・教育普及活動・調査研究活動などを行っています。

これらの活動を展開していくためには多くの市民の参画・協力を得ており、全国でも例のないタイプの「地域総合博物館」として高い評価を受け、利用者や関係機関等から「よりよい生活をするためによりよく地域を知る」博物館として親しまれています。

2. 当初予算

事業名	事業概要	予算 (単位:千円)
1 博物館特別展事業	学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。 29年度は地質分野（石ころ観察）、歴史分野（古絵図）、民俗分野（前鳥神社資料）の特別展と、博物館文化祭を実施します。	5,910
2 博物館教育普及活動推進事業	市民の生涯学習に役立てるため、体験学習、各種の講座、野外教育活動等を実施します。 29年度はプラネタリウム機器のリースが延長となり予算額が減少しますが活動内容に大きな増減はありません。 収蔵環境維持のための測定器を購入します。	23,264
3 博物館協議会事業	博物館の運営全般にわたる諮問及び協議を行うため、博物館協議会を開催します。	170
4 博物館管理事業	博物館の安全かつ快適な施設環境を保持するため、施設の適切な維持管理を行います。 29年度は空調用ボイラー設備の改修を行います。	49,276
5 博物館情報システム事業	市民に地域への関心を深めてもらうため、博物館が集めた平塚及び相模川流域に関する情報を広くインターネットで発信します。	1,827
6 市史編さん事業	本市の歴史的発展過程を振り返り、郷土に対する市民の関心を高めるため、平塚市史を編さん・発行します。 29年度は平塚市史（全16巻）の第14冊目として、身近にある市内の寺社の由緒歴史をまとめた「別編寺社(1)」を刊行します。	11,529
総計		91,976

平成29年度 博物館歳出予算明細

01 博物館特別展事業

費目	主な支出内容	28予算	29予算	前年度差
報償費	展示協力者・資料提供者謝礼	383	393	10
旅費	調査・資料収集出張旅費	19	23	4
消耗品費	特別展示用消耗品	420	415	-5
印刷製本費	図録等印刷代	4,514	4,505	-9
通信運搬費	資料等運搬費	19	19	0
委託料	特別展用看板・パネル等製作委託料	540	540	0
原材料費	展示等作成用原材料	15	15	0
事業費計		5,910	5,910	0

02 博物館教育普及活動推進事業

費目	主な支出内容	28予算	29予算	前年度差
報償費	展示協力者・資料提供者謝礼	2,256	2,151	-105
旅費	調査・資料収集出張旅費	253	225	-28
消耗品費	調査研究・展示・プラネ・O A機器消耗品等	747	778	31
〃	温湿度記録計(29)		65	65
印刷製本費	ポスター・出版物、写真D P E等	2,022	2,062	40
〃	プラネ券等印刷代		250	250
物品修繕料	展示機器・プラネタリウム機器等修繕料	1,280	1,346	66
〃	プラネタリウム設備リース延長対応修繕(28)	3,000		-3,000
通信運搬費	寄贈資料等運搬費	20	20	0
委託料	資料等保存処理委託等(D 5 2・ホルマリン・剥製)	250	250	0
〃	常設展示用映像機器更新委託(28)	1,250		-1,250
賃借料	プラネタリウム設備、O A機器リース料等	20,480	13,386	-7,094
〃	施設使用料	50	50	0
〃	情報展示P C更新リース料(28)	4,050		-4,050
〃	プラネ機器再リース&番組使用料(29)		2,261	2,261
原材料費	展示等作成用原材料	37	32	-5
備品購入費	研究活動用機材等	300	300	0
負担金	博物館協会等年会費等	88	88	0
事業費計		36,083	23,264	-12,819

03 博物館協議会事業

費目	主な支出内容	28予算	29予算	前年度差
報償費	博物館協議会委員報酬	170	170	0
事業費計		170	170	0

04 博物館管理事業

費目	主な支出内容	28予算	29予算	前年度差
賃金	日々雇用職員賃金	629	642	13
消耗品費	管理用事務用品等	270	300	30
光熱水費	電気・ガス・水道代	8,474	8,284	-190
物品修繕料	備品等修繕料	372	372	0
施設修繕料	設備等緊急支出用修繕料	1,500	1,500	0
〃	空調用都市ガスボイラー修繕料(28)		6,574	6,574
通信運搬費	電話・F A X代等	396	414	18
手数料	各種設備法定検査費用(水質・煤煙)	60	60	0
保険料	建物総合損害共済分担金	50	50	0
委託料	施設管理委託料等	29,749	29,873	124
〃	O A機器保守委託料(コピー紙)	57	62	5
賃借料	施設リース料(城島プレハブ)	756	756	0
〃	O A機器リース料(リソグラフ)	65	65	0
〃	C A T V利用料・トイレ脱臭剤利用料等	324	324	0
事業費計		42,702	49,276	6,574

05 博物館情報システム事業

費目	主な支出内容	28予算	29予算	前年度差
報償費	情報機器入力作業協力者謝礼	252	252	0
消耗品費	WEBシステム用消耗品	29	29	0
通信運搬費	レンタルサーバ運用費	111	111	0
賃借料	WEB関連機器リース料	1,435	1,435	0
事業費計		1,827	1,827	0

06 市史編さん事業

費目	主な支出内容	28予算	29予算	前年度差
賃金	嘱託員賃金			0
賃金	臨時職員賃金	1,649	1,683	34
報償費	執筆協力者・資料整理協力者謝礼等	3,200	3,166	-34
〃	校正作業協力者謝礼		110	110
消耗品費	事務用品等	157	157	0
印刷製本費	資料等印刷代	100	100	0
〃	市史印刷代	0	6,221	6,221
通信運搬費	図書館施設電話代	52	52	0
委託料	OA機器保守委託料(コピー紙)	30	30	0
負担金	県歴史資料取扱機関連絡協議会年会費	10	10	0
事業費計		5,198	11,529	6,331

平成29年度 平塚市博物館 普及事業予定概要

平成29年(2017)3月現在

展 示

夏期特別展「河原の石ころ探偵団(仮)」では、身近な河原で観察できる石材の知識から周辺の大地の成立ちを考えます。秋期特別展「村絵図を歩く(仮)」では、平塚市域に残る村絵図を紹介するとともに、絵図をもとに現地を訪ねる行事も実施します。春期特別展「四之宮前鳥神社(仮)」では、四之宮地区の市民とともに、相模国四宮前鳥神社の宝物を中心に展示します。「第19回 博物館文化祭」では、博物館で活動する教育普及行事ワーキンググループの成果を発表します。

1階寄贈品コーナーでは概ね月替わりで各分野の企画展を開催します。2階情報コーナーではポスト特別展やミニ文化祭を開催します。

特別展	春期特別展「女の子と男の子のお雛さま-桃と端午の節句人形-」	2017	2月 25日	～	5月 7日
	夏期特別展「河原の石ころ探偵団- (仮称)」		7月 15日	～	9月 10日
	秋期特別展「ひらつかの村絵図を読む(仮称)」		10月 21日	～	12月 17日
	博物館文化祭-展示・発表・実演-(詳細は実行委員会で決定)	2018	1月	～	2月
	春期特別展「四之宮前鳥神社(仮称)」		3月 17日	～	5月 6日

寄贈品 コーナー	民俗 「五月人形展」	2017	4月 1日	～	5月 7日
	全分野 「新着資料展 -自然分野-		5月 12日	～	6月 4日
	全分野 「新着資料展 -人文分野-		6月 17日	～	7月 12日
	歴史 「平塚空襲展」		7月 15日	～	8月 20日
	考古 「平塚の埋蔵文化財速報展」		8月 24日	～	9月 6日
	実習 「博物館実習生の展示」		9月 15日	～	9月 27日
	考古 「相模の城紀行 -関東の戦国-		9月 30日	～	10月 31日
	地質 「テーマ未定」		11月 3日	～	11月 29日
	全分野 「引きあいの多い博物館資料」		12月 2日	～	12月 26日
	天文 「テーマ未定」	2018	1月 4日	～	1月 31日
	地質 「テーマ未定」		2月 3日	～	2月 27日
	歴史 「テーマ未定」		3月 2日	～	4月 1日

プラネタリウム

天文のテーマと季節毎の星空の話題でお送りする一般投影を7番組と幼稚園を対象とした幼児投影を行います。また、学校を対象とした学習投影を水・木・金曜日午前に予約制で行なっています。

一般投影	一般向け投影 「銀河鉄道の夜」	2017		～	4月 2日
	一般向け投影 「宇宙から見た流星」		4月 8日	～	6月 4日
	幼児向け投影 「内容未定」(親子ほしぞらタイムを実施)		5月 13日	～	7月 15日
	一般向け投影 「太陽と星の動き」		6月 17日	～	7月 16日
	一般向け投影 「さよならカッシーニ」		7月 22日	～	8月 27日
	一般向け投影 「宇宙の地図をつくれ！」		9月 2日	～	10月 29日
	一般向け投影 「フリートーク・プラネタリウム」		11月 4日	～	11月 26日
	一般向け投影 「2018年の天文現象」		12月 2日	～	1月 28日
	一般向け投影 「2018年宇宙の旅」	2018	2月 3日	～	4月 1日
季節投影	「いつもの星空」				
特別投影	「星空と音楽の夕べ」「星空とともに」				

各種普及行事

この他にも様々な行事があります。詳しくは「広報ひらつか」や博物館ホームページ(<http://hirahaku.jp/>)をご覧ください。

自由参加 行事	歴史	平塚郷土史入門講座		
	民俗	ろばたばなし		
	考古	考古学入門講座		
	天文	星を見る会／天文学入門講座／星を見に行こう！星空観察入門		
	全分野	こどもフェスタ 2017 イブニング・ミュージアム・ウィーク[夏] イブニング・ミュージアム・ウィーク[秋]	2017 5月 7日	
申込制 行事	考古	体験学習「縄文人になろう」	2017 8月 5日	
	民俗	石仏見学会	2017 10月 29日	
		体験学習「お飾りをつくろう」	2017 12月 24日	
	地質	自然観察入門講座「貝化石を調べよう」	2017 8月 10日	
		体験学習「河原の石ころ図鑑を作ろう」	2017 7月 26日 ～ 7月 27日 2017 8月 23日 ～ 8月 24日	
	野外観察入門講座「相模川ジオツアー入門」		2017 10月 21日 2017 12月 2日 2018 2月 25日	
		生物	みんなで調べよう「セミのぬけがら調べ」	2017 7月 ～ 8月
		キノコの観察会	2017 10月	
	天文	みんなで調べよう「ひらつか星空調査隊」	2017 12月	
	プラネ	雑貨団シアトリカル・プラネタリウム／プラネタリウムコンサート		
会員制 行事	歴史	古文書講読会／地域史研究ゼミ／平塚の空襲と戦災を記録する会／裏打ちの会		
	民俗	お雛子研究会／石仏を調べる会／民俗探訪会／聞き書きの会		
	考古	古代生活実験室／東国史跡踏査団／平塚の古代を学ぶ会		
	地質	相模川の生い立ちを探る会		
	天文	天体観察会		
	展示	展示解説ボランティアの会		

その他の全館的事業

館内のくん蒸・消毒に伴う休館	2017 6月 5日 ～ 6月 16日
博物館実習	2017 9月 6日 ～ 9月 14日

*都合により内容・日時が断りなく変更される場合がありますので、「あなたと博物館」「広報ひらつか」等でご確認下さい。